

自然博物館
ニュース

A·MUSEUM ア・ミュージアム

vol.30
〔2001.12.25〕



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



恋瀬川

自然が残る川 恋瀬川



石積みによる護岸

吾国山付近を源流に八郷町から千代田町、石岡市を通り霞ヶ浦へと注ぐ恋瀬川は、全長20数キロメートルの主に水田地帯を流れる川です。堤防沿いにサイクリングロードも整備され地元の人たちにも親しまれています。この川には、自然の岸辺が多く残されています。ていぼう堤防内の両岸数メートルにヨシが生え、川底も砂でおおわれています。水田地域を流れる部分の大半では、石積みの護岸が整備され水辺の植物の生育や魚の産卵にやさしい環境が残されています。このように自然の川岸を残す努力がなされているため、恋瀬川周辺には多様な生物が見られます。魚ではウグイやシマドジョウなどが見られます。

(教育課：中島政明)

見て聞いて 觸れて わくわく ミュージアムパーク

第2回市民コレクション展

とって、集めて、整理して

—いつしか「石」に魅せられて—

2002年2月3日(日)~2月24日(日)

「石」はどこにでもあり、そして、いつもなんとなく見過ごしている……多くの人にとって「石」とはそんな存在でしょう。しかし、最近のアウトドアブームの到来とともに、私たちは、河原でのキャンプやハイキングなど、自然と触れあう機会が増えてきました。そんなとき、ふと、おもしろい形や模様の石に興味を抱いて手にとってみたことはありませんか。

また、石には「いつまでも変わらず残る」という特徴があります。皆さん、素晴らしい旅の想い出や苦労して登った山の頂の清々しさの記念に「石」を手にしたことはありませんか。その「石」は、少しずつ風化していく記憶をときどき甦らせてくれるでしょう。

いろいろな「石」…岩石や鉱物には、多彩さ、形の不思議さ、美しさなど、人には作り出すことができない不思議な魅力があります。また、「石」には地球に関するさまざまなもの情報がたくさん詰まっています。このような「石」のもつ不思議さに触れて「石」に魅せられていった人たちは、やがてたくさんの「石」を集めていきます。

子どもたちの理科離れが進みつつある今日、さまざまな観点で「石」に興味を持つ人が増えつつあることは大変嬉しいことです。今回の企画展では、あらゆる観点からみなさんが集めた「市民コレクション」を紹介して、「石」の魅力に触れ、それが自然科学に対する関心の出発点になってほしいと思いま



灰柱石 長野県川上村産（原田 明氏寄贈）
鉱物収集家の原田氏により採集・現地で初記載されたもの。



自然観察会で熱心に鉱物を探す人たち（桂村）

す。また、このような「市民コレクション」の行方と自然博物館の役割を鉱物標本を例に紹介するとともに、今、私たちが直面しているさまざまな問題について考えます。

(資料課：小池 渉)



亀甲石
正体は炭酸塩ノジュール。



世界最高峰エベレスト(左の峰)と
山頂の岩石(石灰岩)
(酒井治孝氏所蔵)

会期 平成14年2月3日(日)~2月24日(日)

開館時間 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(ただし2月11日は開館し、翌日は休館します)

入館料 大人 520円(420円) 高・大学生 320円(200円)
小・中学生 100円(50円)

* () 内は20名以上の団体料金です。

*未就学児、65歳以上の方、障害者手帳を持参の方は入館無料です。

*この料金には、本館常設展・野外施設入場料が含まれています。

主な展示内容

はじめに・・君も宮沢賢治になろう！

わたしの石、ぼくの石

私の想い出の石コーナー

色やかたちに魅せられて／想い出の記念に／汗と涙の結晶

いろいろな鉱物コレクション

私は鉱物が大好物／職場で見つけた鉱物／研究のための鉱物

研究ノート●北浦周辺の植物

今年度植物研究室では、北浦周辺においてフローラ調査（どこにどのような植物が生育しているかを明らかにする調査）を行いました。昨年度までの調査では、霞ヶ浦、涸沼、小貝川、桜川、鬼怒川、利根川と調査を行ってきているので、この調査をもって県南、県西地域の水系における植物相の調査をひととおり実施したことになります。

今年度の調査において、611種の維管束植物を確認しました。その中でも、絶滅が心配されている植物が8種確認されました。それらの植物について紹介します。

○カゴノキ クスノキ科

茨城…希少種

暖地に生える常緑高木。うす灰黒色の樹皮は点々とはげ落ちて鹿の子模様になるので、「鹿の子の木」と名付けられました。本県が太平洋側の北限地で、本調査では、潮来市で生育が確認されました。



カゴノキ

(撮影：野口多蔵氏)

○タコノアシ ユキノシタ科

環境庁…絶滅危惧Ⅱ類 茨城…希少種

水辺や休耕田などの湿地に生え、小さな多数の花が吸盤のついたタコの足のように見えます。県南部を中心に生育していますが、個体数は減少しています。

○アサザ ミツガシワ科

環境庁…絶滅危惧Ⅱ類 茨城…希少種

ため池や湖沼、水路などの波の静かなところに生える浮葉植物。本調査では、3地点において確認されましたが、水質浄化のために移植されたものである可能性も考えられます。



アサザ

○ミクリ ミクリ科

環境庁…準絶滅危惧 茨城…希少種

ため池、湖沼、河川、水路などに生えます。埋没していた種子がため池の改修工事により発芽することもあります。ミクリの名は、果実の集まった様子がクリに似ているため名付けられました。



ミクリ

○ジョウロウスゲ カヤツリグサ科

環境庁…絶滅危惧ⅠB類

水湿地にややまれに見られます。果実のようすが高尚であるとされて名付けられました。生育地の開発が減少の主な原因となっています。

○コクラン ラン科

茨城…危急種

県内では、これまで常緑樹林下の数力所での生育が確認されていて、今回の調査では、3地点で確認されました。乱獲などにより減少しています。

○シラン ラン科

環境庁…準絶滅危惧 茨城…絶滅危惧種

やや湿った草原や斜面に生えます。県内では数力所の生育地が報告されていて、今回は1地点で確認できただけでした。乱獲や斜面の開発により減少しています。



シラン

(撮影：大津昭治氏)

○オオアカウキクサ アカウキクサ科

環境庁…絶滅危惧Ⅱ類

水田や湖沼に見られる浮遊性の水性シダ植物。水の汚れが減少の主な原因と考えられています。

(資料課：太田俊彦)

小さな発見—ミュージアムコンパニオン●バードレストランオープン中

エサの少ない冬場、11月中旬から3月の終わりの頃の間だけ、鳥たちのためにヒマワリの種やヒ工などの雑穀をエサ箱に入れて置いています。その名もバードレストランです。レストランとはいっても、ボール紙で作られた簡単なエサ箱ですが、鳥たちには大変好評のようです。場所は野外へ出て、菅生沼へ向かう道の途中にある菅生沼ゲート出入口です。

ゲートの堀の上にエサ箱を置いておくと、すぐにスズメやシジュウカラがやってきます。最初はおどおど様子をみながらといった感じですが、慣れてくるにつれて朝から待っていて、まるで「早くオープンして」と言っているかのように体を上下に揺らします。その姿がなんとも愛らしく、寒い朝の中でもかじかんだ心がほっこりと温む一時です。
(ミュージアムコンパニオン：猪瀬祥子)



展示品紹介●フクロダガヤ<ディスカバリー・プレイス最終ラインのニューフェイス>



コーナー全景

ディスカバリー・プレイス(茨城の自然)から、セミナーハウスや野鳥の森に向かう際、自動ドアにさしかかる直前に見えるのが、「茨城で最初に発見された生物」のコーナーです。そこは博物館の野外と展示室の境界ともいえる部分で、ある意味、日常と非日常がゆるやかに交錯する空間もあります。

このコーナーのケースには、今回の企画展のタイトルにもなっているヒヌマイ



フクロダガヤ
Tripogon longearistatus var. *japonicus*
◆茨城県北部・栃木県の一部
山地の岩上に生える。花期は9~11月。和
名は発見された(大子町袋田)からつけた。
資料

フクロダガヤレプリカ(正面)

トトンボの封入標本、ユニークな形態のヒタチクマガイソウ、ラッキョウヤダケのレプリカ、さらには天皇陛下がご覧になられたホシザキユキノシタのレプリカなどが展示してあります。

他のコーナーと同様にこのコーナーもまた、順次更新が行われており、現在、最も新しい展示物が、今回紹介するフクロダガヤのレプリカです。

カンの鋭い方はすでにお気づきのように、大子町袋田で発見されたことにちなんで命名されたフクロダガヤは、イネ科のトリコグサ属に属し、片側二列につく小穂の形が特徴的です。

また、展示されているレプリカでも表現されているように、山地の岩上に生え、分布域が茨城県北部や栃木県の一部に限られていることが知られています。

分類上、この種は変種として扱われ、朝鮮(済州島)、中国東南部に基本となる種が分布しています。

とにかく、分布域が非常に限られているフクロダガヤですが、環境庁(現環境省)の調査で、栃木県の自生地での減少



フクロダガヤレプリカ(斜め)



フクロダガヤ

(撮影: 大津昭治氏)

傾向が顕著であることがわかり、2000年度版レッドデータブックでは絶滅危惧 I A類(CR)に指定されています。このCRというグループに属する種は、このままでは10年後には個体数が50未満にまで減少すると予測されているもので、非常に危険な状態にあるといえます。

取り巻く環境の厳しさにも関わらず、決して、みずから進んでアピールするような植物ではありませんが、その姿からは自然の造形美のひとつの極致と、さらには柔軟さやある種の潔ささえ感じることができるような気がします。

博物館のなかで得た知識を携えて野外に出てゆく前に、茨城を代表する生物であるフクロダガヤや他の動植物が皆さんに伝えようとしているメッセージをどうかしっかりと受け取っていただけますように心から祈っています。

(教育課: 高野信也)

野外だより●笹の葉模様の町屋石 -滑石透閃石かんらん岩-

昆虫の森の片隅に、笹の葉のような模様がついた岩石が置かれています。その笹の葉模様は6cmにも達するものもありますが、これは植物の化石ではありません。カンラン石の大きな結晶の形が、蛇紋石に変質した後も残ったものです。

この岩石は、常陸太田市町屋で産出する蛇紋岩の一種で、「町屋石」と呼ばれています。その模様の美しさから、地元では笹の葉模様の大きさによって「笹目石」とか「ぼたん石」と呼んで、墓石などに古くから利用されてきました。

蛇紋岩は、もともとは地下深部にあ

ったかんらん岩で、加水変質によってやや比重の軽い蛇紋岩へ変わりながら地表まで上昇してきた岩石です。

町屋石は、このような蛇紋岩が途中で熱変成作用を受け、再びカンラン石が結晶したものと考えられています。しかし、カンラン石がこの岩石のように長柱状になるのはとても珍しいことで、その原因はまだ明らかになっていません。

何気なく歩道の脇に置いてある岩石…その岩石一つにも、過去の日本列島の歴史を知る手がかりと未知の謎が秘められています。(資料課: 小池 渉)



カンラン石結晶によってできた笹の葉模様

歳時記●ユズリハ（桺）

「桺を箸置きにして祝ひ膳」（中村苑子）という句があります。日本では古くからユズリハ（桺）を新年のかざりとして、しめ縄や鏡餅につけてお祝いをしました。それは、新しい葉がでてから古い葉が落ちるのを、子が成長してから親が譲るのにたとえて、めでたいとしたのです。地方によってはショウガツノキ、ショウガツノハなどとも言います。ユズリハ（桺）は、新年の季語なのです。

山中に生えるユズリハ科ユズリハ属の常緑高木で、葉は枝の先に車輪状につき長さ15~20cm程になります。雌雄異株で5~6月頃直径数mmの花がたくさんかたまって咲きます。花には花弁もがくもありません。庭木としてよく植えられます。本州の宮城県以南、四国・九州・南朝鮮・中国中部に分布します。同じ属には茨城県以南の太平洋岸、福井県以南の日本海岸に分布する常緑高木のヒメユズリハがあります。ヒメユズリハは、ユズリハより葉の長さが短く7~11cm程です。花には小さいのががくがあります、また葉脈はユズリハでは隆起していませんが、ヒメユズリハではしばしば網状に隆起することなどから見分けられます。茨城県はユズリハ、ヒメユズリハのどちらの生育も見られます。他に本州北部から北海道に分布する低木のエゾユズリハがあります。

ユズリハの語源は新しい葉が出て、つぎに古い葉が落ちるので新旧の変わらるようすから「譲る葉」になったと言われています。葉の新旧の交代は常盤木落ち葉（ときわぎおちば）という言葉があるように常緑樹の特徴で、ユズリハだけではありませんが、艶のある大きな葉の世代を譲るさまが特徴的だったのでしょうか。中国では「交譲木」と書きますが、同じ語源を持つと思われます。

（教育課：中川久夫）



ユズリハの若葉

（撮影：須田直之氏）

収蔵品紹介●細貝コレクション

2001年1月、当館で開催された日本古生物学会において、日本国内で初めて発見されたタラ目ソコダラ科ホカケダラ属の骨格化石が発表されたことは記憶に新しいところだと思います。それは、博物館ボランティアの細貝利夫氏によって発見されたものです。

細貝氏と化石との出会いは、平成3

年の久慈郡金砂郷町の住宅団地建設現場だそうです。以来、細貝氏は化石の研究と採集に取り組まれ、収集した化石のうち茨城県内産動植物化石標本約2,000点を寄贈していただきました。なかでも、金砂郷町産の動植物化石は、その産出状態が珍しく、学術的に大変貴重な資料となっています。

それでは、どのようなところが珍しいのでしょうか。先にも述べたタラのなかまは、深海で生息しています。ですから、その化石が見つかるということは、当時の環境が深海であったと考えるのが普通です。しかし、そのすぐ隣には陸上の植物や浅い海で生息していた貝の化石がみられるのです。なぜこのように混在してしまったのかは、当館の職員らのグループにより研究中です。

さらに、細貝コレクションの植物化石のなかから4種類の新種が報告されています。特に、マメ科ジャケツイバラ属の植物化石は採集者の細貝氏の名前から「*Caesalpinia hosogaii*」と命名されました。

このように貴重な細貝コレクションは、常設展示でその一部を見ることができます。ディスカバリー・プレイスの「茨城の自然」コーナーには、植物や貝などの化石を約20点展示しています。ご来館の際には、是非ご覧下さい。

（資料課：宮崎淳司）

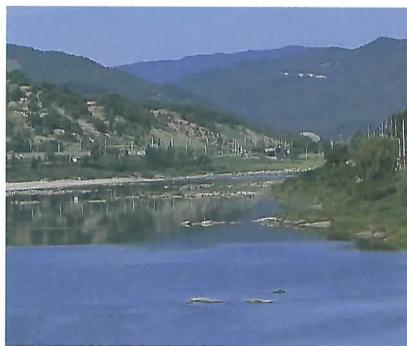


金砂郷町産のイバラキホタテ

館職員レポート●韓国調査報告 石塚 剛（教育課・文化財保護主事）

韓国最初の国立公園

今年の9月、韓国の南西部、全羅南道という地方の求礼という町に行ってきました。韓国で一番早く国立公園に指定された智異山国立公園の玄関口で、山あいの自然豊かな落ち着いた町でした。1週間滞在し、動物の調査を行ってきました。



町を流れる蟾津江



求礼の街並み

調査は、朝の死体拾いから

夜間に事故にあった野生動物を採集するため、毎日早朝約2時間、川沿いの道路を車で走りました。ネズミ、シマリス、チョウセンイタチ、タヌキ、マムシ、キジバト、タシギ、オオコノハズクなどを回収しました。その一部は冷凍保存し日本に持ち帰り、加工した後に、平成14年3月16日からの企画展「コリアの自然史」に展示される予定です。



交通事故死したオオコノハズク

鳥類相は日本とそっくり！ でも少し違うところが…

韓国の鳥類は、大部分が日本で見られるのと同じ種です。ところが、調査を始めるとすぐに、様々な違いを見出し、「やはり外国なんだな」と感じました。その最も特徴的な鳥がカササギです。カササギは、日本では九州の一部にしか生息しませんが、韓国ではどこにでもいて、あちこちでその姿を見ることができます。ゴミをあさったり、電柱に巣を作ったり、「カラスのなかま」らしさを存分に發揮していました。ちなみに、ハシブトガラス、ハシボソガラスの両種を平地で見かけることはありませんでした。韓国では完全な「カササギ天下」のようです。



カササギ

カワセミ類が、あちこちに

川で魚類の採集やカワウソ調査を行いましたが、その際必ずといっていいほどカワセミを見かけました。「水辺の宝石」が豊富な事に驚いたのですが、さらに印象深かったのがヤマショウビンです。ほぼ毎日、しかも数カ所で観察することができました。太くて赤いくちばしや、青くて大きなからだに目を奪われました。韓国の水辺では、比較的普通に見られるそうです。



ヤマショウビン

まだ残る豊かな自然

日本でもよくあるような町並みや田舎の風景が、そこかしこにありました。しかし、人の営みのすぐ近くに存在する豊かな自然は、日本より密度の濃いものを感じました。隣国でありながらまだ良く知られていない韓国の魅力を、新たにひとつ見つけたような気がします。

コラム by director NAKAGAWA ◎ジュニア学芸員

博物館野外の紅葉が一段と美しい10月27日、所定の研修コースを終了した中高生に認定書が授与され、当館初めてのジュニア学芸員が誕生しました。

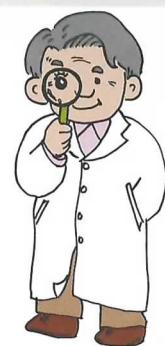
この制度は平成13年度に新しい試みとしてスタートしたもので、博物館に興味関心のある中高生に特別の博物館研修の機会を提供し、その成果を館内教育活動にも活かしてもらおうとするものです。

今年度、応募登録して下さった中高

生は44名、当館学芸員とボランティア・サポーターの皆さんとの連携支援のなかでそれぞれのテーマについて調査・研究をしてきました。

そして、9月、10月には各自が研修の成果を来館者に発表し、5月からの全コースを終了したのです。

発表では、フリーの来館者の興味をつなぎとめるために一生懸命声を張り上げる姿に頼もしい未来の学芸員を見る思いがしました。



イラスト：瀬戸かおりさん

トピックス○9～11月

入館者350万人達成!!○9月20日(木)

平成6年11月13日の開館以来、約6年10ヶ月後の9月20日(木)に当館の総入館者数が350万人を突破いたしました。9月23日(日)には、350万人達成感謝デー特別イベントとして、博物館オリジナル商品が当たる「お楽しみくじ引き会」を開催しました。



350万人目の佐々木美夢さん(12)に記念品を贈呈

ネイチャーウォークラリー○10月28日(日)

平成11年度に開館5周年を記念しスタートしたネイチャーウォークラリーも今年で第3回目。当日は、途中雨が降るなどあいにくのお天気でしたが、県内外から1819名もの方が参加し、博物館の野外施設とあすなろの里につくられたコースの中にある自然に関する問題を楽しみました。3kmの総合優勝者の鈴木要介さん(竜ヶ崎市)・6kmの総合優勝者の粕谷靖さん(友部町)をはじめ、上位入賞者には、地元岩井市の特産品などの賞品が贈られました。



博物館野外「花の谷」での一コマ

水系だより

以前、本誌vol.26でイトヨの繁殖について紹介をしました。ベビーラッシュのあと、その後の行方はどうなっているんだろうと疑問に思っている方も多いと思います。

そのときから、約1年が経過し、イトヨの赤ちゃんたちは順調に成長しています。大きな個体では2センチを越えるものも出てきました。一時期には、100数尾となり飼育水槽を増やすなどいろいろな工夫をし、飼育してきました。

第22回企画展「SATOYAMA」参加団体交流会○9月24日(日)

第22回企画展「SATOYAMA」の最終日9月24日(月)に、展示の中で活動を紹介していただいた団体の交流会を開催しました。里山活動の見通し、学校との連携についてなど活発な意見の交換がおこなわれました。今後とも博物館を含めて交流が続くことが期待されています。



交流会には21団体が参加しました

第23回企画展「ヒヌマイトンボに吹く風」関連イベント開催

収蔵庫見学ツアー：10月27日(土)

11月10日(土)

研究報告会：10月21日(日)

オカリナコンサート：11月23日(金)

博物館の大きな機能でもある調査研究・資料収蔵の分野をわかりやすく紹介するイベントとして、第2次総合調査に携わった研究者の方々による「研究報告会」や、「博物館の舞台裏～収蔵庫見学ツアー」を開催。特に収蔵庫ツアーは初の試みで、開かれた博物館をめざすイベントの第一歩となりました。また、11月23日には第2次総合調査の対象地域である笠間で、オカリナの制作・演奏を

てかける平本孝雄氏のグループ「イ・カサマ」出演によるオカリナコンサートを開催。併せて当館学芸員と平本孝雄氏によるオカリナ制作と陶土や笠間焼との関係など興味深い対談も行われました。



やさしいオカリナの音色に感動しました

アミューズデー○11月4日(日)・サイエンスデー○11月13日(火)

11月第1日曜日は、当館の開館を記念したアミューズデー。今年は、小さな子どもたちも楽しく参加できる紙芝居上演会を開催し、「博物館を紹介する紙芝居」オリジナル作品『茨城県自然博物館へGO!』などを上演しました。

また、茨城県民の日にあたる11月13日はサイエンスデー「茨城・科学の日」。多くの方々に、クイズを通して楽しみながら博物館や自然に関心をもってもらいたいと、新企画「博物館チャレンジクイズ大会」が登場。館内クイズのあ

との野外芝生広場での○×クイズには大人も子どもも喜びながら参加していました。



小さな子どもたちが大勢参加した紙芝居

そして、繁殖したイトヨたちは、採集した場所に放流したり、県内の学校に渡って行きました。また、新しく生まれ変わる新水族館（アクアワールド・茨城県大洗水族館 2002年3月21日オープン）に引っ越しをする予定です。

新水族館ではイトヨの長期的な飼育及び繁殖を目指した専用の飼育水槽での展示を行い、これからイトヨの研究も期待できそうです。

(大洗水族館：山本 研)



博物館生まれのイトヨの赤ちゃんたち

インフォメーション (1~3月の行事)

自然観察会 (各40名) *現地集合。

1月20日 (日)

『イノシシたちの生活を歩きながら観察してみよう!』 (大子町)
(対象: 高校生以上<登山道以外も歩きます>)

2月24日 (日)

『掘って見て貝化石 (阿見町)』
(対象: 小学生以上 小学生は保護者同伴)

自然講座 (定員: 300名)

2月3日 (日) 13:00~15:00

『宇宙人は、本当にいるのだろうか!? ~最新の天文学成果から宇宙像を探る~』
(対象: 小学4年生以上)

自然教室 (定員: 40名)

1月13日 (日) 10:00~12:00

『里山の自然体験~落ち葉であそぼう!~』

▲2月9日 (土) 10:00~15:00

『魚の標本をつくろう』

3月9日 (土) 10:00~12:00

『つくってみよう石のスライス』

(対象: 小学生以上、ただし▲印は中学生以上)

企画展記念イベント (定員: 300名)

3月16日 (土) 13:30~15:30

『映像で見るコリアの自然』

(対象: 中学生以上)

大人&子どもフィールドガイド

(定員: 中学生以上30名 小学生30名)

1月27日 (日) 9:30~12:00

『森林公園の植物 (水戸市)』

[観察会等への申込方法]

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います。(自然講座・企画展記念イベントは先着順)。

また、本号発行時には受付を終了しているものもあります。予めご了承ください。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

TEL 0297-38-2000

0297-38-0927(直通)

サンデーサイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタジールームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

テーマ

1月『赤土の中のたからもの』

2月『貝の体をしらべてみよう』

3月『タネであそぼう』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

(但し、1、2月は午後のみ)

[サンデーサイエンス受付]

受付 開始時間の1時間前から、スタジールーム前で受け付けます。希望者多数の場合は抽選を行います。

自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽に相談ください。

相談方法 直接ご来館ください。(または郵送・eメールでも受付けています。)

相談日 毎月第2日曜日

場所 ディスカバリー・プレイス観察コーナー

時間 13:30~15:00

えいが会 (定員: 300名) [3階映像ホール]

1月20日(日)『ユニコ〈アニメ〉』

2月17日(日)『インディペンデンスデイ』

3月10日(日)『ティガームービー ブーさんの贈りもの〈アニメ〉』

上映時間: 14:00~ (開場13:30)

入場無料 (当日9:30~整理券配布)

次回企画展

コリアの自然史

一大陸と日本を結ぶ生きものたち

平成14年3月16日 (土) ~

平成14年6月16日 (日)

朝鮮半島の生きもの初公開!

その他のイベント

・サイエンスデー (無料入館日) 3月21日(木) 特別イベント開催

○平成13年12月28日(金)から平成14年1月1日(火)までは、年末年始の休館日となります。

交通案内



●常磐自動車道谷和原I.C.から20分
●JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車
～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。



【開館時間】

午前9時30分から午後5時まで (入館は午後4時30分まで)

*ペット及び遊具等の持ち込みはご遠慮ください。

■小・中・高校生無料入館 ■休館日 ○サイエンスデー (無料入館日)

1月

日月火水木金土

■	2	3	4	5				
6	■	8	9	10	11	■	12	
13	14	■	15	16	17	18	19	
20	■	21	22	23	24	25	■	26
27	■	28	29	30	31			

2月

日月火水木金土

1	2							
3	■	4	5	6	7	8	■	9
10	11	■	12	13	14	15	16	
17	■	18	19	20	21	22	■	23
24	■	25	26	27	28			

3月

日月火水木金土

1	2							
3	■	4	5	6	7	8	■	9
10	■	11	12	13	14	15	16	
17	■	18	19	20	21	22	■	23
24	■	25	26	27	28	29	30	

ご利用案内

[入館料]

区分	本館・野外施設		野外施設のみ
	企画展開催時	通常時	
大人	720円 (580円)	520円 (420円)	200円 (100円)
高校・大学生	440円 (300円)	320円 (200円)	100円 (50円)
小・中学生	140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)

(注) () 内は団体料金 (20人以上)

未就学児・65歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。
つぎの日の入館料は無料です。

●4月29日 (みどりの日) ●6月5日 (環境の日)

●11月13日 (茨城県民の日) ●3月21日 (春分の日)

▲高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。(但し、春・夏・冬休み期間中を除く)

[休館日]

●毎週月曜日 (但し、1月14日(月)、2月11日(月)は開館し、翌日休館となります)

●年末年始12月28日～1月1日

●1月14日(月)、2月11日(月)は開館し、翌日休館となります)

●年末年始12月28日～1月1日

●1月14日(月)、2月11日(月)は開館し、翌日休館となります)